

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 現況報告 計算通り12/24 CH17静穏化・しかし本日CH20特異

長期継続特殊前兆No.1778の続報現況報告です。

No.1778

No.1778前兆に関する前の情報として、現在認識の第12ステージが、12/11.0初現12/16.0 極大認識の場合は、12/26 ±が示されることになり、誤差を含んだ場合でも、12/24には終息し、24日に終息した場合には、12/27を示す可能性があります。

昨日 12/23夕刻微弱な特異状態だったCH21は、ほぼ静穏正常基線に復帰しました。

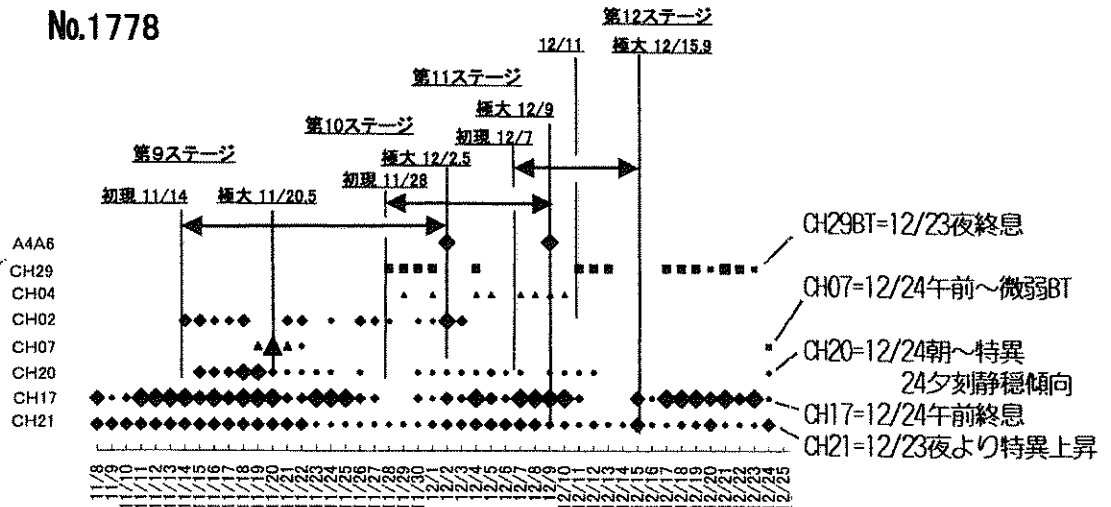
しかし、CH17の糸状態特異が継続したため、この時点で12月26日発生の可能性は否定されました。現認識が正しい場合の誤差を含んだ可能性として、12月27日を示す可能性がありましたが、その場合は、計算上12月24.4~5に終息確認ができる計算になります。

右波形のとおり、糸状態特異が継続していたCH17が、本日12月24日午前09時30分頃特異状態が終了し、静穏化、正常基線に復帰致しました。これで全CHに前兆がなければ、12/24終息で12/27日を示すことになりませんが、右波形のとおり、CH20が本日朝より特異状態、昼過ぎをピークに夕刻から静穏傾向にあります。また昨日夕刻～夜正常基線となったCH21が本日未明から特異状態が顕著化しています。若干微小ですがCH07にも本日午前からBTが認められます。

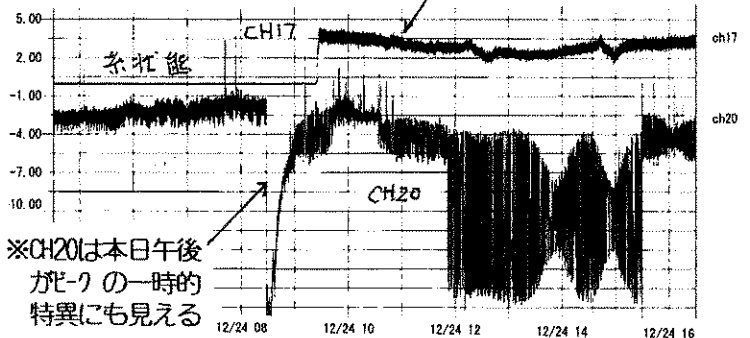
本日前兆が出現したのは12/9極大の直前特異か、新規前兆か

本日前兆が完全静穏化しなかった理由として、考えられる可能性は二つあります。

- ◆可能性①: 本日24日前兆静穏化(CH17)したが、12/9極大の直前特異が出現(計算上のピーク=12/24 昼頃)した可能性。
- ◆可能性②: 12/26±に更なるピークが出現するための前兆初現の可能性。



※ 12/16より継続していた糸状態が 12/24午前09時30分終息 CH17



※CH20は本日午後がピークの一時的特異にも見える

可能性。

可能性①の場合は、前兆の出現状態から、明日25日夕刻迄には静穏化する可能性有。但し 12/16極大に対しても直前特異が出現する場合は、明日の12月25日昼頃がピークと計算されるため前兆が再び出現し、26日夕刻まで前兆継続の可能性有。この場合はあくまでも27日発生の可能性となります。

可能性②の場合は12月26日±まで勿論前兆が継続し、26日±に極大が出現する可能性がある。

どちらの可能性も完全否定は困難で、明日段階でも判断は困難な状況です。26日夕刻段階まで観測しないと決定は困難。但し現状27日発生の可能性は完全否定できませんので注意。

- ◆推定領域: 右図 太線領域内=大枠推定領域 斜線領域=可能性が考え易い推定領域 (※影響局誤認の場合は東北領域(可能性低い見解))

◆推定規模: M7.8 ± 0.5

◆推定時期: 可能性① 12月27日 可能性② 今後の観測データを鑑み推定 ※可能性①か②かの判断は12月26日夕刻までの観測データを見ないと決定できない可能性有。

◇推定地震種: 震源が浅い日本列島の地殻地震(陸域) ◇推定発生時刻: 午前09時±1 (又は午後06時±3)

